

北にも西にも : 京・江戸・博多、そして巴里 : 29

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/7397118>

出版情報 : 福音宣教. 78 (7), pp.10-11, 2024-07-01. Oriens Institute for Religious
バージョン :
権利関係 :





「カトリック札幌教区ニュース」は全頁カラーのA4サイズの冊子。2024年4月発行の第45号最後のページは「北国のシスターズ」コーナーで、室蘭のベネディクト会が登場。聖堂の窓の下に鹿の親子が現れたときの写真も掲載されていました。

イクト会が登場。聖堂の窓の下に鹿の親子が現れたときの写真も掲載されていました。

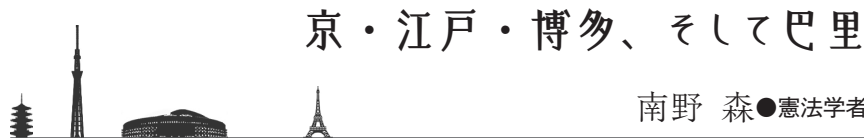
たことのある、卒寿を超えた姉妹がおられるという。中川議員の話を読んでくださった若い姉妹は、早速そのコピーをこの年長の姉妹と東室蘭教会のメリノール会士ライヤ神父とに渡してくださった。すると年長の姉妹は、この若い姉妹に一枚のプリントを手渡された。そこには、大戦中も京都に残り、終戦直後は、日本へやってくるアメリカ兵に対し、日本人に敬意をもつて接すべきことをラジオ放送を通して訴えたバーン師のエピソードがまとめられていた。

バーン師は、のちに朝鮮への教皇使節に任命され、ソウルの明洞大聖堂で司教に叙階されるが、一九五〇年、まさにベネディクティヌが日本へ避難してきた年、朝鮮戦争の勃発に伴う捕囚者の「死の行進」の途上で亡くなってしまう（そのとき、5人のベルギー人とフランス人のカルメル会修道女も一緒であった）。この話もいくつか書かねばと思っているのであるが、それにしても、福岡のゼミの東京研修旅行で三重のザン師の名前が突然登場し、そこから室蘭のベネディクティヌとのご縁ができ、その結果こうして京都のバーン師に改めて思いを馳せている不思議。小文を書かせていただけて良かったと、つくづく思っている。

室蘭からのお便りをいただいた一ヶ月後のこと。編集部には、今度は長崎から葉書が届いた。一月号で福岡カトリック神学院の閉校について書いたが（連載第23回）、それを読まれた方が、かつて神学院の近くに住んでいたのだから実に懐かしい、と感激して葉書を送ってくださいだったのであった。北にも西にも、素敵な読み手がたしかにいてくださることに、書き手は感激している。



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の山内奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。



京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

29 北にも西にも

本連載の読み手はどこにいいのか、SNSにはまるで見つからないなどと文字通りの愚痴をこぼしつつ、中高の同窓会で久しぶりに再会した（直接教わったことのない、高齢の）先生がいつも読んでくださっていることを知り感激したという話を書いたのは四月号（連載第26回）であった。その末尾に、編集部北海道のシスターから手紙が届いたと書いたことを、読者は覚えておられるだろうか。

もうひとつ、ゼミの学生を引率して東京へ行き、立憲民主党の中川正春衆議院議員に面会していただいたとき、議員の口から三重のメリノール会士R・ザン神父の話が飛び出し感激したという話を書いたのは二月号（連載第24回）。京都教区の初代教区長は同会のP・バーン神父（のちに司教）であったから、なんだか不思議なご縁を（一方的に）感じたのであった。

室蘭に、聖ベネディクト女子修道院がある。もとはドイツの修道院により創設（二八五二年）された米国ミネソタ州の修道院から北京に派遣されていた6人の姉妹が、中華人民共和国の成立（一九四九年）による宗教弾圧を逃れ台湾に避難し、翌一九五〇年六月、そのうちの2名が横浜にやってきたのが日本における始まりで、その7年後、夕張に北海道で最初の共同体が誕生した。このとき、ベネディクティヌを夕張に招かれたのが、メリノールの司祭たちだったのである。それで私の書いたメリノール会の話を讀んだ室蘭のシスターが、編集部にお便りをくださったのであった。

驚いたことに、室蘭のコミュニケには、ザン師にもバーン師にも実際に会つ